

第1回加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会 議事要旨

- 1 日時：2023年6月28日（水）午後2時00分から3時30分まで
- 2 場所：加茂市役所5階 第一委員会室
- 3 出席者(敬称略)

委員：木戸 信輔（加茂商工会議所 会頭）
田邊 良夫（加茂市商店街協同組合 理事長）
萩野 正和（株式会社 conel 代表取締役）
松井 大輔（新潟工学部工学科 准教授）
加藤 はと子（全国「道の駅」女性駅長会 会長） ※オンライン参加
中丸 精一（第四北越銀行 加茂支店 支店長）
杵鞭 久（加茂信用金庫 理事長）
小林 一隆（NST新潟総合テレビ 情報制作本部 デジタルマーケティング部 部長）
市川 恭嗣（加茂市 CSO）、渋谷美浩委員（新潟県三条地域振興局 局長）
川崎 大一郎（加茂青年会議所 理事長）
横山 泰（新潟経営大学 地域活性化研究所 所長）
若月 守（NTT東日本 新潟支店 副支店長）

オブザーバー：吉田 勤（JR東日本 新潟支社 企画戦略室長）

事務局：政策推進室、(株)オリエンタルコンサルタンツ

傍聴者 0名

報道機関 7社

4 議事

(1) 開会あいさつ

(2) 自己紹介

(3) 内容および質疑

1) 加茂駅周辺まちなかエリアでの賑わいと活力あふれた持続可能なまちづくりの推進に向けて

①エリアプラットフォーム構築と未来ビジョン策定について

事務局から「資料4 加茂駅周辺まちなかエリアでの賑わいと活力あふれた持続可能なまちづくりの推進に向けて」の「①エリアプラットフォーム構築と未来ビジョン策定について」を説明した後、質疑を行った。

【事務局】抽象的な話だったので皆様それぞれの立場に置き換えたときに自分がどう関与していくのかがイメージしづらかったと思う。些細なことでもお聞きいただければと思う。

【委員】プレイヤーをどう生みだすのが難しく、重要なことだと感じた。まちづくり会社の設立は必須ではないとのことだが、設立の流れはどのようにイメージしているのか。例えば、民間から立ち上がるのか、あるいは、行政がまず投資するのか。イメージがあれば教えていただきたい。

【事務局】民間有志の活動を行政で最大限サポートしたいと考えている。各団体の皆様のなかで、そういった活動の芽があればぜひ教えていただき、力を合わせていきたい。

【委員】今日この場は私が出席しているが、ワーキンググループのメンバーとしては本部の課長が出席予定である。それは問題ないか。若い人の方がよいと思う。

【事務局】ワーキンググループには委員の方に参画していただくことに加え、実働部隊として動けるメンバーに新規に参加していただきたいと考えている。改めて個別にご相談させていただきたい。各団体からの参加人数は制限しない。

【事務局】補足説明する。ワーキンググループに参加するメンバーは固定しなくてもよい。テーマに合わせて柔軟に対応していただくようお願いしたい。

【事務局】ここで、エリアプラットフォームの考え方やこれまで関わって来られた取組みについて、お話をいただきたい。

【委員】日本全国でまちの在り方を再考する時期が来ている。今までは官が方向性を示していたが、民の方向性でもあるということ認識して一緒になって動くようなビジョンを作っていかなければならない。

また、ビジョンを作っている程度方向性を共有しつつも、こういったプレイヤーが生まれてくるか、巻き込むかが今後求められる。プレイヤーを巻き込んで、物事が動いていき自走していくまでの仕組みを作らなければ意味がない。エリアプラットフォームを掲げながら官民連携でその仕組みを回していくことが今のまちづくりの流れである。加茂での新しいモデルを作っていけたらと思っている。

②まちなかエリアの現状（R4 年度の検討結果の共有）及びまちなかエリアの将来イメージ（ありたい姿の仮説）

事務局から「資料4 加茂駅周辺まちなかエリアでの賑わいと活力あふれた持続可能なまちづくりの推進に向けて」の「②まちなかエリアの現状（R4 年度の検討結果の共有）」「③まちなかエリアの将来イメージ（ありたい姿の仮説）」を説明した後、質疑を行った。

【委員】SWOT 分析については、ワーキンググループで再度洗い直しを行うのか。

【事務局】昨年の検討結果を踏まえているが、修正を加えたい点もあるだろうと思っている。足りない事項の追加を議論し、ブラッシュアップする場がまさしくワーキンググループであると考えている。

【委員】外部有識者とあるが、「外部」という語は何を意味しているのか。

【事務局】行政以外を意味している。

【委員】自分の住んでいる地域の魅力は実はなかなかわからないことがある。県外や市外の方に資料を提示し、ご意見をいただくことにより、外部の目線を知ることができるのではないか。

【事務局】松井委員は京都、萩野委員は千葉のまちづくりに携わっておられた。他都市のまちづくりに関する見識をお持ちの方が委員にいらっしゃるので、外部の目線を取入れることができると考えている。より一般市民に近い外部の目線を知ることができる機会については、準備協議会にて今後検討していきたい。

【委員】エリアの強みとして JR 駅周辺が挙げられていたが、JR では、加茂駅を県内でどのような位置づけにあると捉えているのか。

【委員】市人口 25,000 人に対して加茂駅の乗車数は 2,000 人強である。他都市と比較して鉄道の分担率が非常に大きい。例えば、新潟駅の乗車数は人口の数%程度しかないが、加茂市では人口の 1 割である。利用者の 7 割程度が高校生であることも大きな特徴である。加茂には複数の高校があり、大学や短大もある。高校生などの若い世代の意見も聞くといいのではないか。

【事務局】残念なことに、加茂市では現在、新しく生まれる子供が少ない状況にある。一方で高校に関しては、一学年 600 人程度、3 学年で 1,800 人である。大学や短大もある。大学や短大では車での登校も増えるとはいえ、学生の鉄道利用数が多いこと

は、一つの財産として活かしていかなければならない。加茂の特徴として、就労世帯のうち半分が市外で働いている。その内半分が新潟市、半分が三条市である。加茂駅は送り出す役割も担っているといえる。そういった人口動態を意識しつつ、うまく商店街の活性化などへとつながる流れをデザインしたいと常日頃考えている。ぜひ今後皆さんと議論していきたい。

【委員】行政であればある程度事業の継続性が担保できるだろうが、まちづくり会社を運営する場合、事業の持続可能性についてじっくり議論していかなければいけないのではないかと。

【事務局】おっしゃるとおりである。まちづくり会社の持続可能性は重要だと考えている。未来ビジョンとそれに紐づく活動の持続可能性を大切なテーマとして議論していくことが重要である。前市長までは、賑わいづくりの受け皿を行政がかなり手厚くやっていた。今後は、施設の老朽化などへの対応などもあり、行政が受け皿として支え続けるということが困難になる。民間の皆様の活力を活かしていただきながら、行政として最大限手助けができるよう、用地の提供や補助金などの制度面の後押しなどをしていきたい。民間事業者がうまく収益を得て事業が回る形にしないと続かない。そういったところを一緒に考えていきたい。

【委員】そもそものところでお聞きしたい。スケジュールについて、10月にはエリアプラットフォームの体制や方針を決めていくとなっている。当初は行政が事務局機能を担い、令和6年度以降は色々な主体で施策を行っていくとのことだが、その時間軸の中で協議会はどういう役割を担ってどういうゴールを目指すのか。ワーキンググループがどう動いていくのか。非常に時間軸が短い中でどうしていくのかがわからない。例えば先ほどの説明だと、ワーキンググループで議論したことを協議会が承認していくという位置づけに見える。全体の役割とスケジュールについてももう少しわかりやすくご説明いただけるとありがたい。

【事務局】基本的には今おっしゃったとおりである。ワーキンググループで議論したことを協議会において修正、承認することを想定している。スケジュールがタイトであるということも偽らざる事実である。10月の第2回準備協議会、1月の第3回準備協議会の前に2回のワーキンググループを予定しているが、必要に応じて回数を増やすこともあり得ると思っている。ワーキンググループの意見をそのまま協議会に押し付けることは当然想定していない。ワーキンググループで出た意見はまとめて準備協議会の前に皆様と共有する。準備協議会開催前に皆様からご指摘いただいた部分は準備協議会までに事務局で整理していく。

【委員】今、未来ビジョンやまちづくり会社などについて、色々と議論が出ているが、準備協議会は、今後の会議体や運営体をどのように作っていくかを議論する場と理解している。それを作ったうえで課題がワーキンググループに落ちて、議論した結果が協議会の方に戻ってくるということなのか。あるいはワーキンググループの方で議論したものが上がってくるというイメージか。後者の場合、ゴールが見えなくて、きりが無いという印象を受ける。

【事務局】前者の考え方で、議論をワーキンググループに落としていくこともあるし、ワーキンググループから上がってくることもある。その相互作用の中でやっていく。補足として、ワーキンググループで出た議論のすべてを皆様が集まる場で共有して議論するのは現実的に無理があると考えている。事前にメールなどで資料を配布し、場合によっては事務局からのご説明を加えるなどする。

【委員】確認だが、ワーキンググループには我々が出ないということか。

【事務局】委員の皆様からご出席いただいても構わないが、具体的な議論に関しては実務者レベルで話し合うことを想定している。

【委員】実務者というのはどういう人のことか。

【事務局】例えば商工会議所であれば、まちづくり委員会を立上げられているかと思うので、そのメンバーの方からご参画いただくことを想定している。

【事務局】少し補足すると、ワーキンググループに関しては、事前に案を書いてきていただき、それをベースに議論するような形を想定しており、作業量が多くなるのではないかと考えている。作業負荷も含めて参加できる方をイメージしている。もちろん今日お集りの委員の方に参加していただいても構わないし、活きのいい若い者がいるということであれば、そういった方々に託していただいても構わない。各団体の中でご検討いただければと思う。

【委員】メンバーの具体的な構成についてお聞きしたい。

【事務局】可能であれば準備協議会の構成団体の皆様に参加していただければと思っている。ただし、テーマによって、参加しない回もあり得る。

【委員】今ここにいる各メンバーの組織から実務者が参加するということか。

【事務局】その通りである。

2) セミナー企画(案)について

事務局から「資料6 セミナー企画案」を説明した後、議論を行った。

【事務局】今のご説明の中で、1番皆様に議論していただきたいのは、セミナーをどう位置づけるかということである。委員の皆様との意見交換の場にするのか、ワーキンググループのメンバーも含めて意思を共有する場にするのか、もっと幅広く市民で関心のある人も含めていくのか、という3つの階層があると考えている。枠組みとしてどうあるべきか皆様のご意見を頂戴したい。

【委員】誰を対象にするのかはセミナーの内容によって決まる部分もあるのではないかと。どういう講師が来るか、どういう話をするのかによって、そのテーマに関心がある層も変わる。講師の名前など、どういう方かということ具体的に教えていただければ検討しやすい。

【事務局】先ほどのご説明にあった通り、エリアプラットフォームやビジョンについての概論と事例紹介の二部構成を現段階では想定している。前者については萩野委員を講師の例として提示させていただいている。萩野委員がこれまで取り組んでこられたものについて、あるいは、官民連携の取組についてご紹介いただくイメージである。

【委員】セミナーを複数回行う可能性はあるのか。

【事務局】現在は1回として年間スケジュールを組んでいるが、複数回やるべきというご意見があれば、それを否定するものではない。

【委員】セミナーの目的として、エリアプラットフォームについての知見を深めるという段階と、そこから広げてプレイヤーになれそうな市民の方に声をかけるという段階があると思う。全体のスケジュールの前半に第1部に相当する内容のセミナーを行い、我々の中で未来ビジョンなどが固まってきた段階で第2部に相当する内容のセミナーを行うなど、段階的に考えてもよいのではないかと。

【委員】参加者数の想定が大切である。加茂の方は声をかけると皆さん興味をもって集まってくださる印象がある。商工会議所で市川 CSO がお話しされたときや新潟経営大学で加茂市の未来を考えると約40人が参加していた。参加者数が30人なのか、100人なのか、500人なのかで方向性も全く変わってくる。個人的な意見としては、参加者数が100人程度集まれば、その中からプレイヤーが見つかるのではないかと。

【委員】担い手・プレイヤーになる方が非常に重要だと思っている。すでにまちづくり会社をおこしてうまくいっているプレイヤーの方を講師として招き、起業のきつ

かけや当初の事業の採算性の見込みについてお話しいただくことにより、プレイヤーの発掘・育成につながるのではないかと。

【事務局】委員からお話があったように、第1部、第2部を別々に実施することは我々でも検討段階から頭にあった。まず、第1部で準備協議会のメンバーおよびワーキンググループのメンバーで意思を共有する。そして、プレイヤーを見つける・育てるという意味で、実際にプレイヤーとして活躍されている方からお話を聞く。その2つの階層があるのはおっしゃる通りである。その方向性にするということで本日合意が取れるのであれば、事務局でそのような流れの検討を進める。例えば、なるべく早い段階で概念的な部分を皆様と読解し、具体の部分については秋口頃からプレイヤーが参加しやすいような枠組みにすることが考えられる。皆様のご意見はどうか。

【委員】そのやり方が理想的だと思う。第1部の内容に相当するセミナーを8月の第1回ワーキンググループに先んじてなるべく早い段階で行う。第1回についてはワーキンググループのメンバーが主体で、協議会のメンバーも参加できるようにすればいいのでは。第2回については市民にも知らせ、興味のある方に参加してもらえようとする。その流れが理想かと思う。

【委員】プレイヤーを見つける、育てるとおっしゃっていたが、すでに様々な団体が現場で活躍している。それを吸収できるようなプラットフォームを市が中心となって作り、バラバラで行われている活動をトータルにコーディネートする役割を担っていただきたい。個々に活動している団体が、加茂を盛り上げていこうという同じ方向を向いて活動できるようにしていただきたい。大学、高校、農業団体などが、それぞれ活躍しているので、それを一つにするような取組をぜひお願いしたい。大切なことは、現場で活動しているやる気のある方々が、集まりたい、これならやろうと思えるような方向にもっていくことだと思う。去年、市と商工会議所で主催したイベントには100人以上が集まった。市民の関心の高さを感じた。

【委員】全国各地でプレイヤーとして活動あるいは手伝いをしてきたが、どの地域にもプレイヤーは必ずいる。加茂にいたっては既に多くのプレイヤーが一生懸命に活動しているというところから始めるべきである。彼らが中心となって引っ張ってってくれると思うが、協議会の役目は彼らが同じ方向を向いて活動できるように旗を立ててあげることだと感じた。

【委員】そういったプレイヤーは事務局で把握しているのではないかと。

【事務局】把握しきれないほどの方々がそれぞれ熱心に活動しておられると理解している。その方々が同じ方向を向いて一緒になってやれるよう、協議会やセミナーな

どをデザインする必要があると認識した。本日の議論を踏まえ、セミナーの開催時期などを含め、事務局で調整したのち委員の方々と共有する。

5 今後の進め方について

日程が決定次第、随時スケジュールを共有する。ワーキンググループへの出席者などについては今後、各団体に個別に相談する。

6 閉会

以 上